

平成25年度事業報告書（平成25年4月1日～平成25年9月30日）

次のとおり当法人が平成25年度（4月1日～9月30日）において実施した事業について報告する。

I 事業の状況

1 全般的な事業の状況

種苗の生産事業は、ヒラメ・クルマエビ・クロソイについて生産及び中間育成を行い、計画どおり配布することができた。（クルマエビ、クロソイは一部未配布）

アワビについては生産数が需要数を下回る見込みだったため、北海道から一部移入した。

また、県水産振興センターで栽培したガザミ種苗の斡旋も計画どおり行った。

放流効果実証事業は、ヒラメ・マダイの種苗生産・中間育成を実施し放流した。

放流数は計画数を上回ることができた。

放流効果調査（市場調査）も計画どおり実施した。

なお、4月1日にアワビ種苗生産施設が県から無償譲与され、協会所有施設となった。

この施設が8月に象潟地区で発生した竜巻の影響により、屋根が飛ばされるという被害に遭ったが、種苗生産に影響はなく、屋根も復旧することができた。

2 各事業の状況

（1）種苗生産供給事業

① アワビ

配布時期	6月25日～8月8日		
配布種苗	平均殻長	20mm	435,476個
		30mm	68,900個
	計	20~30mm	504,376個

② ヒラメ中間育成（放流・養殖）

配布時期	7月2日～8月30日		
配布種苗	平均全長	200mm	1,400尾（養殖・親魚）
		50mm	20,000尾（放流）
		60mm	153,000尾（放流）
		80mm	53,000尾（放流）
	計	50~200mm	227,400尾

③ クルマエビ

配布時期	9月26日～9月30日		
県内配布	平均全長	25mm	2,343,300尾
	県外配布	25mm	300,000尾

自主放流	25mm	817,700尾
計	25mm	3,461,000尾

④ ガザミ（斡旋事業）

配布時期 7月2日～7月8日

秋田県水産振興センターが生産した種苗を購入

購入・配布種苗 平均全甲長 5mm 1,885,000尾

(2) 放流効果実証事業

① ヒラメ

栽培施設：秋田県水産振興センター施設

生産期間：4月9日～6月14日

生産種苗：平均全長 27.9～33.4mm 尾数：410,200尾

中間育成施設：秋田県水産振興センター施設及び岩館中間育成施設

中間育成期間：6月11日～9月10日

放流日：7月7日～9月10日

平均全長 70.0～85.0mm 放流尾数計：225,000尾

② マダイ

栽培施設：秋田県水産振興センター施設

生産期間：5月22日～7月26日

生産種苗：平均全長 37.4～47.1mm 尾数：968,400尾

中間育成施設：秋田県水産振興センター施設、戸賀湾、椿漁港、金浦漁港施設

中間育成期間：6月11日～9月10日

放流日：7月7日～9月10日

平均全長 77.7～78.3mm 放流尾数計：648,000尾

③ 放流効果調査及び資料集計

マダイ・ヒラメの市場調査

期間：平成25年4月1日～平成25年9月30日

(3) 水産振興センター種苗飼育業務の受託事業

水産振興センターで飼育している魚類等の飼育管理

トラフグ、親ヒラメ、親マダイ、ワムシ

(4) 栽培漁業啓発普及事業

放流式を男鹿市北浦漁港で開催し、マダイ、ヒラメの稚魚を放流した。

また、昨年度末に開設した協会ホームページで栽培漁業協会の事業内容等の情報を発信した。

さらに7月に開催された「海フェスタ おが」の海の総合展に稚魚展示ブースを設け栽培漁業の啓発普及活動を行った。(展示稚魚：マダイ、ヒラメ、アワビ、クロソイ)

(5) 復興支援事業

東日本大震災で栽培施設が被災した岩手県の要請を受け、ヒラメ稚魚15万尾を生産したほか、ヒラメの親魚養成をした。また、(社)岩手県栽培漁業協会の職員1人を受け入れ、種苗生産業務に従事してもらった。

さらに、(公財)宮城県水産振興協会の要請を受け、宮城県水産振興協会職員4人を技術研修員として受け入れ、栽培技術や施設維持管理手法を習得してもらった。